

事業計画書

事業名	子どもと大人が地域で学び合い繋がる学習支援（仮名称）「にじっこ」
場所	沼津市 日ノ出町 地内 他
実施予定期間	平成29年7月1日 ～ 平成30年3月20日
日程	実施項目・作業項目
	<p>学習支援「にじっこ」は、虹は多様性の表現であり、年齢・立場を問わないすべての学習困窮者が交流しながら、学べる場となるように名付けた。</p> <p>「学習支援」</p> <p>日時 7～3月 毎週土曜日 午後13時～16時 週1回とし別途入試前は補習日時を設ける (祭日、盆、年末は休み)</p> <p>会場 サンウエルぬまづ及び静岡アカデミー高等学院（予定）（住所/沼津市大岡2475-6 2階：通信制単位制高校の利用のない時間を定期的に有料で賃貸借する）</p> <p>対象者 年齢を問わず学習困窮者である者（学び直しをしたい者、高校中退者、低学歴により就労に困難を抱えている者も含む）</p> <p>指導者 市民ボランティア（一部募集）</p> <p>方法 開所時間内は出入り自由とする。 一人ひとりの学習意欲を引き出すことを目的に個別で指導する。 学習教材が必要な場合はプリント・ドリルなどを配布する。 食育指導や季節行事、相談など学習だけでなく生活スキルや自己肯定感の向上になり必要に応じた取り組みを行っていく。</p> <p>学習支援が必要な人々を抱える複合的な課題をもつ世帯を、市民ボランティアを中心として地域で支えることを目的とする。こうした家庭においては、衣食住や健康に関する基本的な生活スキルが不足しており、そこで、学習支援に加えて食育指導などを合わせ行うことで、当該世帯の生活力を高めることを目的とする。また、運営ボランティアによるミーティングを綿密に行い、フードバンクなどの福祉サービスの利用スキルなど、当事者の生活力を高め、当事者自身が課題をのりこえられるような支援を行う。</p> <p>また現在サンウエルぬまづで行っているが、手狭であり、子どもだけで通いやすい場所で学習支援を行ってもらいたいという要望もあるため、サンウエルぬまづ、大岡地区で今年度は学習支援事業を行い、他地域でも定期的に活動できる場所を早急に選定し、学習支援ができる体制を整えていく。</p>
事業効果	<p>家庭環境要因による学習困窮者が、継続的に学習支援を受けることで、学習意欲、学力が向上するだけでなく、進学面、就労面においてもあきらめずに希望につながる。また、居場所づくりも重視し、特に学習意欲が低い子、問題行動をする子、学習困窮者のために低学歴で就労に至らない者の話を聞く体制を整え、本人の特性に応じた対応し、排除されない場所だと感じてもらうことで孤立を防止することができる。</p> <p>学習支援を必要と思う市民が多く、地域での支援を行うボランティアの活動増加が見込まれるとともに、様々な市民が関わることで学校とは異なる社会と地域のつながりができる。継続的な学習支援の場を作ることにより、現在増加傾向にある就学援助対象者や高等学校退学者の減少が見込まれ、また学び直し、低学歴の者も学習支援を行うことで若者の就労率の向上が見込まれる。</p>

<p>公益性</p>	<p>我が国の貧困率は6分の1に達し、「誰もが貧困」に陥る時代となった。本団体は、沼津市において生活困窮者の自立支援に取り組んでおり、学習支援に加えて、保護者や本人等の就労支援・食育指導・金銭管理指導を合わせて行うことができ、支援対象者を抱える世帯の、現時点での経済状況を改善できるのみならず、その世帯における貧困の連鎖をも断つことができる。その結果、とりわけ貧困率の高い地域（公営団地などの多い地域）のまちづくりが促進され、行政にとっては、税収の増加、社会保障費・就学援助費の抑制などが期待される。</p>
<p>発展性</p>	<p>こどもたちを取り巻く様々な環境に対し、地域で学習支援を行うことで、課題解決のための取り組み、食育支援や傾聴、親のサポートなど様々な支援グループの形成や繋がりなどが見込まれる。広報沼津やfacebookを利用し学習支援に関するボランティアの募集を行う。また、学習支援ボランティアのためのサポート体制を整え、HPの活用や定期的なミーティングを行う。</p> <p>このように学習支援から生まれた市民の連帯の形をモデルとして発信することで沼津市内の他地区の市民が自発的に普及・拡散していく可能性がある。</p>
<p>地域性</p>	<p>サンウェルぬまづのみで学習支援を行ってきたが、1か所では通える利用者が限られるため、大岡地区で通いやすい場所で学習支援を提供する。</p> <p>この支援自体が困窮している子供が地域にいることを知った市民の自発的なものであること。特に困窮している世帯が多い地域に場所を移していく。ただし、生活困窮者というスティグマを押しさないような配慮をし、気軽に親しめることができ、分け隔てなくだれもがのびやかに地域で学ぶことができる場をつくり、地域コミュニティの活性化につなげる。</p>
<p>必要性</p>	<p>現在、各地で無償で市民ボランティアが学習支援を行っているが、駐車場代、場所代などの経費はボランティアの持ち出しである。また、なるべく費用をかけないように参考書やドリルなども中古など提供していただいているが、継続的な活動を行うには財政的な支援が必要であり、開催地も子どもたちが通える場所で、安価な場所を選ぶ必要がある。沼津の子どもたちに目を向けて守り育てることは地元沼津で活躍する人材育成という観点にもつながりまちの活性化や魅力づくりに直結している。</p>
<p>先導性</p>	<p>市は中学生を対象とした生活困窮世帯の子どもの学習支援事業を行っているが、支援対象年齢ではない子どもたちや制度から外れたものの生活に困窮している世帯の子どもたちへの学習支援を提供することができる。（市が運用する制度を補完・拡充できる）また対象年齢を括らないことで、金銭面でフリースクールや高等学校に通いたくても通うことのできない子どもたちの救済の場となる。食育支援と組み合わせることで健康・保健の分野の支援にもなってくる。</p> <p>また、私たち就労支援団体が学習支援を手掛けることで、対象の子どもたちが、就労年齢に達した際には就労支援を提供できるようになる。</p>
<p>継続性</p>	<p>学習支援事業を通じて、市民ボランティアのコミュニティを育てることで、継続的・自立的な取り組みを実現する。市民ボランティアが運営することで、運営資金を最低限におさえる。実施場所についても、ボランティアのネットワークを通じて将来的に無料で利用できる場所を確保する。今後とも、最低限の経費については、助成金の利用や寄付などを募りながら行っていく。</p> <p>また、学習支援を市民による活動のきっかけとし、ボランティアの自発性によって行うことで、継続性を高める。</p>